

栗生小学校学校運営協議会

CS基本理念

地域への誇りとグローバルな感覚を持った社会に役立つ人づくり
～地域の課題と向き合いともに学ぶ活動を通して～

コンセプト 自ら開こう 未来の扉



1 コミュニティ・スクールの取組みを通して育てたい子供像

「自ら開こう未来の扉！」を合言葉に、地域課題に向き合い、ともに学ぶ活動を通して、地域への誇りとグローバルな感覚をもった社会に役立つ人づくりを目指している。

目指す子ども像は「主体的に学ぶ子ども」「自立する子ども」「たくましい子ども」「地域・社会を愛し、貢献する子ども」である。



2 学校の特色を生かした取組み

栗生小学校学校運営協議会は、「家庭教育充実部会」「学校教育充実部会」「地域活性化部会」の3つの部会から構成されている。それぞれ、PTA活動の充実を通して、また学校教育の充実を通して、さらに町内会、社会福祉協議会等の地域の力を生かした活動を通して、子どもたちに、ふるさとの地から世界を見つめ、これからの社会をたくましく切り拓いていく力を育むことを目指している。

各部会が、役割や責任をしっかりと自覚し、積極的な活動を行うことで充実した取組みが数多くできている。

目標や目指す子ども像を共有し、一体となって子育てに取り組むことにより、子どもたちは確実に成長している。また、保護者・地域の皆さんが成長を喜んでくださることによって、子どもたちは感謝やふるさとへの思いを強くもつようになり、同時に地域の活性化にもつながっている。

(1) 社会に開かれた教育課程の創造

よりよい学校教育を通してよりよい社会をつくるという理念のもと、社会に開かれた教育課程の創造に取り組んでいる。これまでの活動を生かし、地域を学ぶ、地域から学ぶ、地域とともに学ぶ学習を創っていこうとチャレンジしている。

【あじさいの町栗生をみんなで盛り上げよう】

あじさいで有名な神宮寺では、毎年6月にあじさい祭りが行われる。実際に神宮寺を訪れる人を増やしたい、栗生を誇りに思う気持ちを育みたい、いつかもっとあじさいが咲き誇る町にしたいという思いが学校運営協議会で出され、次のような取組みへとつながった。

①神宮寺あじさい園草取り（地域活性化部会）

1～4年生の児童が、地域の役に立ちたい、訪れる人に喜んでもらいたいという思いで草取りを行っている。



この活動で、地域を大切に思う気持ちが育まれると同時に、3年生総合的な学習の時間「あじさい祭り盛り上げ隊」へとつながっている。

②3年生「あじさい祭り盛り上げ隊」（学校教育充実部会）

総合的な学習の時間に地域の良さを発信し発展に貢献したいという思いから「あじさい祭り盛り上げ隊」



を結成し、自分たちにできることを考えた。

そして、地域の方からの聞き取り学習や訪れた方を案内し、手紙を渡すなどの活動を行った。多くの方に地域の良さをアピールすることができ、児童の意欲も高まった。

③あじさい絵画コンクール (家庭教育充実部会)

児童や保護者に実際にあじさい祭りに足を運んでもらいたいと企画した。

親子で現地に行って描いたり、写真に撮って作品に仕上げたりした。

全部で41点の応募の中からクリティ絵画王(最優秀賞)他10点の入賞が決定され、地域の公民館祭で表彰式を行う。



【災害に強い地域をみんなで考える】

①4年生「栗生の町を守りたい」(学校教育充実部会)

社会科「地震からくらしを守る」の学習から、自分たちの地域の課題に目を向け、栗生の防災について、町内会長さんを招いて聞き取りをした。

栗生地域は、土砂災害危険地域も多く、自主防災組織が活発に活動されている地域である。

話を聞いた4年生は課題意識を持って地域の方といっしょに、自分の地域の防災マップ作りに出かけた。



できあがった防災マップは、防災参観日で全校児童に向けて発表し、児童の地域防災への関心が高まった。

②防災参観日(学校教育充実・家庭教育充実・地域活性化部会)

「みんなで高めよう防災力」と題し、保護者や地域の方々も一緒に学んだ。

命について考える道徳の時間、保護者対象救命法講習、地域の防災士さんの講話、4年生防災マップ発表を行った。最後に大雨を想定しての児童引き渡し訓練を行い、児童・保護者・地域の方々の防災の意識が高まった。

(2) 地域や家庭の力を生かした取組み

【地域行事への参加】

クリティ・スタンプラリーなどの工夫を行って、児童の主体的な参加が増えるよう取り組んでいる。また、地域の良さを感じられるよう取り組んでいる。その一つが栗生の伝統行事である虫送り太鼓である。

①虫送り太鼓への参加(地域活性化部会・家庭教育充実部会)

児童の地域への関心は高まり、参加が増加するとともに、堂々と演じる姿が見られるようになった。



【地域ボランティアの活用】

①プール掃除(家庭教育充実部会)

6年生の保護者を中心に児童と一緒に実施した。プールが見違えるように美しくなり、児童の愛校心や水泳学習への意欲が高まった。



②クリティ・サマースクール(地域活性化部会)

夏休みの6日間、地域ボランティアの方が見守りをして学習会を実施している。今年度は延べ88名の参加があった。



集中して夏休みの宿題に取り組むことができたと言った児童や保護者に好評だった。

3 今後の方向性

○成果

- ・学校・家庭・地域の三者が子どもたちに力をつけたいという思いで一致し、多くの学びや活動の場を作ることができた。ふるさとや人々への感謝の気持ち、ふるさとを誇りに思う気持ちが育まれ、子どもたちが生き生きと育っていると感じている。
- ・三者が協働して様々な学習活動を展開することができ、児童も保護者や地域の方々も、ともに学ぶ活動にすることができた。

○課題

- ・一つの活動を他の教科等と関連付け、カリキュラム・マネジメントをしていく必要がある。
- ・児童が主体的に地域の課題とかかわり、自ら解決する学習活動を学校・家庭・地域が協働して行い、児童に力をつけていくことが必要である。